

北陸支部の ジュニア会員制度報告



北陸支部
石川地域会
清水 純

北陸支部のジュニア会員は、本部で準会員として認められる以前の2002年度から「準会員制度」として立ち上げ、いろいろなJIA活動に参加、協力してもらっています。また、その長い(?)歴史ゆえの憂いも抱えています。各支部でのジュニア会員の増強を目指す上で参考になればと考え、筆を執りました。

ジュニア会員の現状

まず、ジュニア会員の現状です。ジュニア会員の対象は制度発足前、その目的を「建築・都市や建築家を取り巻くさまざまな問題を正会員、法人会員(当時の協力会員)と共有し、建築界の将来に向けて共に考える中で、自己研鑽を積み建築家としての意思を高める」と掲げ、「設計事務所に勤務し、一級建築士試験の受験資格を持つ若手社員」と考えていました。当然、ゆくゆくは正会員となり、JIA北陸支部を担っていく人育成の意図もありました。そのためにJIAの活動や正会員の取り組みを早くから知ってほしいということで、ジュニア会員の対象を大学並びに専門学校新卒者も含め、「設計事務所に勤務する全ての若手社員」に拡げて制度を発足しました。

現在ジュニア会員は北陸支部全体で46名、所属は地域会とし、その内訳は福井6名、石川18名、富山22名で、発足当時から入会費無料、年会費6,000円です。



2001年金沢大会、設計事務所勤務の若手ボランティア

きっかけは2001年のJIA全国大会

立ち上げのきっかけは、2001年のJIA全国大会開催地が金沢に決定した1999年です。50歳前後の正会員を中心とした実行委員会での打ち合わせの中で、「手足となって盛り上げてくれる若手が欲しい、大会期間中のボランティアも不足しそう」という意見がありました。当時の田中光支部長と水野一郎実行委員長が所属していた金沢工業大学の建築学科出身で、設計事務所勤務の若手と現役学生に対して「JIA会員である設計事務所の諸先輩の情熱に触れ、一緒に活動しよう」という言い訳(?)を謳い文句に募集。無償で協力してもらうことになったのです。同時に建築関連企業の若手社員にも協力をお願いし、法人会員も大幅に増加しました。おかげで金沢大会も成功裡に終わり、若い力の必要性を思い知らされました。

金沢大会での若手の活躍を目の当たりにし、2002年、まずは石川地域会で準会員制度を発足しました。同年から開催した支部大会や県外建築ウォッチングなどに積極的に参加してもらい、さらに一部の事業では企画から運営にまで関わってもらうことになりました。

若い力を存分に引き出す

準会員制度のさらなる飛躍となったのは、2006年に石川地域会主催の金沢21世紀美術館で開催した会期6日間の「あしたの建築展」でした。実行委員会を立ち上げる際に、正会員、法人会員に当時のジュニア会員27名



2006年「あしたの建築展」、ポスター

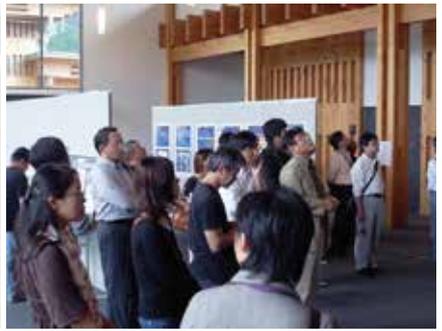
を加え、三位一体の委員会構成とし、すべての事業に関与してもらい、また、法人会員とジュニア会員にも個別事業の企画をお願いしました。さらにはポスターのデザインをジュニア会員のコンペで決定する試み、各種チラシやDM、スタッフTシャツのデザインから広



新聞紙ドーム、県外出張



こども建築塾、県内出張



県外建築ウォッチング

報活動、グッズ制作に関してはジュニア会員に担当してもらい、正会員と法人会員が協力する形を取り、存分に若手の実力を引き出せました。

「あしたの建築展」でジュニア会員が企画した事業は、小学生対象の「新聞紙ドーム」制作。子どもたちに新聞紙でドーム作りを体験してもらい建築の面白さを知ってもらうための事業でしたが、子どもたちの嬉々とした姿を見ることができたことと、県内の小学校数校からオファーが来たことが大きな収穫でした。「これはいい!」ということで図に乗ったわけではありませんが、2007年よりジュニア会員主導の事業「こども建築塾」を開始しました。

当時のジュニア会員27名を中心に、小学生を対象に自分たちの街や自分たちが生活する建築に関心を持ってもらうことを目的に、世界の住宅や変わった建築の紹介、街中ウォッチング、県外キャンプと丸太を使った秘密基地づくり、テーマを決めての模型づくり、CADを使って製図チャレンジ、もちろんきっかけとなった新聞紙ドームなどの事業を展開。県内市町村の教育委員会に働きかけ、出前講座も多く行いました。この「こども建築塾」は毎年行っており、2018年も全6回開催しました。

北陸支部にジュニア会員制度を拡大

石川地域会でのジュニア会員の活躍がJIAの活性化と周知に繋がったことで、2008年には北陸支部に制度を拡大しました。福井、富山地域会は懇親の事業からジュニア会員の参加を促し、2009年度当初には会員数60名となりました。そのうち何名かは数年後、正会員となっています。現在もそうですが、2002年から支部・各地域会は、正会員・法人会員・準会員は同じJIAの会員であるとし、運営を「三位一体」とすることを謳っています。ジュニア会員も総会での議決権はないものの、総会に出席することでJIAを理解してもらい、委員会構成にも組み込み、積極的に事業企画にも関わってもらっています。高齢化が進み会員数を減らしている正会員に対して、ジュニア会員の企画・実践力はJIAの事業には欠かせないものとなっています。

ジュニア会員の課題

さて、メリットの多いジュニア会員のJIA関与ですが、課題も抱えています。最後に「ジュニア会員の憂い」も正直に書かなければ皆さんの参考にはならないでしょう。一番の憂いは「一級建築士試験」です。ジュニア会員は各設計事務所の若手社員であるがゆえに、「資格は足の裏のご飯粒、取らないと気持ち悪いが、取っても食えない」。業務改善・働き方改革とはいえ、各事務所の実務上または現実的に一級建築士資格取得という大きな壁が立ちまだけります。JIA活動で積極的に楽しく参加できる有資格者と、試験勉強に取り組み期間限定で参加する無資格者での格差があり、昨今の合格率低下で各資格取得講座に通う社員が多いことからその格差はさらに大きくなっています。ちなみにJIA登録建築家制度の実務訓練がうまく機能しないことにも資格取得の難しさが大きく関わっていると考えます。

2番目の憂いは、各事務所では若い有資格者は試験という大きな憂いがなくなり、いろいろな実務的なことにチャレンジしてもらい、中堅となって活躍してもらうこととなり、実務の中心的役割を担う立場となることです。会社内ではとても重宝される存在であり、実務の楽しさを感じるお年頃、正会員以上に多忙となりJIA活動への参加が少なくなっていくことです。ちなみに北陸支部・各地域会ではジュニア会員から学生会員へ目を向け、今までのジュニア会員企画事業を受け継ぎ、特に石川地域会の「こども建築塾」にはなくてはならない存在となっています。

ジュニア会員は、正会員へのステップアップ、正会員増強を目的のひとつとして始めた制度であり、建築家としての大切な倫理観を学び、建築への熱意を感じ取ってもらい、同じ会員・仲間として「JIAを楽しむ」はずでしたが……。正会員のJIA関与率も低下している現状打破のため、若い力をJIAに注ぎ込むためにもジュニア会員と共に知恵を出し合う必要があると、ヒシヒシと感じている今日この頃です。